

シオノギ製薬



会社概要

塩野義製薬は、「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」という基本方針のもと、創薬研究開発型企業として、世界中の患者さまやご家族の方々の QOL 向上を実現するために、より一層満足度の高い医薬品をお届けすることをミッションとして、医療用医薬品を中心に、OTC 医薬品や体外診断用薬品の研究、製造、販売活動を行っています。

業種

製薬業

課題

- ・協力企業とのアライアンス上、セキュリティ確保は必須要件
- ・ウイルス対策ソフトによるパフォーマンス低下の解消
- ・クライアントセキュリティの集中管理

環境

Windows XP(SP3)

カスペルスキーのソリューション

- Kaspersky® Work Space Security
 - Kaspersky® Anti-Virus for Windows Workstation
 - Kaspersky® Administration Kit

結果

- ・ウイルス対策ソフトによるパフォーマンスへの影響排除
- ・統合的なセキュリティ対策によるセキュリティレベルの向上
- ・管理性向上による統合的なクライアントセキュリティ環境の維持

ケーススタディ | 塩野義製薬株式会社

老舗製薬メーカーの塩野義製薬が国内グループ 6,000 台の PC に「Kaspersky Work Space Security」を採用し、システム管理性の向上で統一したセキュリティ環境を実現

「シオノギ」ブランドで知られる老舗製薬メーカー、塩野義製薬。同社は創薬研究開発型企業として 10 年後、連結売上高 6,000 億円、営業利益率 25%以上、海外売上比率 50%以上を目指して、2010 年度から第 3 次中期経営計画（5 年計画）を推進している。そこでは、戦略的新薬による着実な成長、新たな成長ドライバーとしての新薬開発、重点疾患領域への経営資源の集中投資という 3 つの基本戦略で臨んでいる。

戦略的新薬の中で最重要戦略品目に位置付けているのが、高コレステロール血症治療薬のクレストール、高血圧症治療薬のイルベタン、抗うつ薬のサインバルタの 3 品目。計画最終年の国内目標売上高 2,000 億円のうち、これら 3 品目で 50%を達成することを目指している。また、抗 HIV 薬をはじめとする感染症領域、生活習慣病を対象とした代謝性疾患領域、疼痛領域などで次期成長を目指した治療薬の開発を進めていく計画だ。

こうした塩野義製薬の成長を IT による事業基盤強化、さらにはプロセスイノベーションを支援している部門が、グループ子会社であるシオノギ総合サービスの情報マネジメント本部である。

同社は 2006 年からシオノギグループ全体のクライアント PC を一括調達する PCLCM（PC ライフサイクルマネジメント）を実施しているが、その 2010 年 4 月稼働に向けた更改を機に、国内グループ全社 6,000 台の PC のセキュリティ対策として採用されたのが「Kaspersky® Work Space Security」だ。

「製薬企業は、国内外の企業と協力関係を築いて創薬・販売を行っています。そのアライアンス締結において、セキュリティレベルが非常に重要です。特に外資系の製薬企業は詳細かつ厳しいセキュリティ条件をクリアしなければなりません。

クライアント PC のウイルス対策は基本中の基本であり、高信頼で確実運用が要求されます」。情報マネジメント本部情報戦略企画事業部事業部長多賀健二氏は、製薬企業におけるセキュリティ対策の重要性をこう述べる。

セキュリティ上の課題

2006 年 4 月の PCLCM 第 1 期で採用したウイルス対策ソフトは、2 年を経過した辺りから数々の課題を抱えていた。「以前のウイルス対策ソフトを選定する際は最新のツールを導入したつもりでしたが、定義ファイルが大きくなったこともあり、PC 起動時や定義ファイル更新時のレスポンスが極端に悪化して業務に支障を来すようになりました。また、定義ファイル更新時に PC がフリーズするということが頻繁に起きていました」。情報マネジメント本部情報戦略企画事業部課長補佐森川昭二氏は、従来のウイルス対策ソフトに関する課題をこう指摘、新たなウイルス対策ソフト採用を決めた。

ソリューション

新たなクライアント用ウイルス対策ソフトを選定するに当たり、同社は主に①機能要件、②パフォーマンス要件、③システム管理要件などを挙げ、3 社の製品を対象に評価テストを実施した結果、総合的に最も評価の高いツールだったとして採用に至ったのが、Kaspersky Work Space Security である。特に Kaspersky Work Space Security を高く評価したポイントを、情報マネジメント本部情報技術統括事業部脇坂哲也氏は選定した理由を次のように述べている。

ケーススタディ | 塩野義製薬株式会社



シオノギ総合サービス株式会社
情報マネジメント本部 情報戦略企画事業部
事業部長 多賀 健二 様



シオノギ総合サービス株式会社
情報マネジメント本部 情報戦略企画事業部
課長補佐 森川 昭二 様



シオノギ総合サービス株式会社
情報マネジメント本部 情報技術統括事業部 (TM)
脇坂 哲也 様

< 販売パートナー >
丸紅情報システムズ株式会社

< お問い合わせ先 >
株式会社カスペルスキー
〒101-0032
東京都千代田区岩本町三丁目 11-9KDX 岩本町ビル
<http://www.kaspersky.co.jp>
<http://www.viruslistjp.com>
sales@kaspersky.co.jp

「ウイルス対策に加えて、スパイウェア対策を考えていました。当初は WindowsDefender を組み合わせて、コストをかけずに同対策を実現しようと提案しましたが、エンドユーザーからクライアント PC セキュリティツールで実現してほしいという強い要望がありました。当時利用していた他社製品は上位 20 種のスパイウェアは検知するものの、それ以外は別のツールで対策してほしいというものでした。それに対して Kaspersky Work Space Security は、スパイウェア対策も含めトータルしたセキュリティ管理が可能だったこと、また、リプレース前のシングルコア、搭載メモリ 512MB というハードウェアスペックで検証したときに、最もパフォーマンスに影響を与えないのが Kaspersky Work Space Security でした」。

さらに、統合管理ツールの Kaspersky Administration Kit も同社が要求するシステム管理要件を十分に満たすと判断された。

結論：セキュリティの新基準

国内シオノギグループ全社の 6,000 台のノート PC で Kaspersky Work Space Security の運用が始まって約 7 カ月。リプレースによってハードウェアスペックが上がったこともあるが、Kaspersky Work Space Security の新しいアンチウイルスエンジンがリソース消費を最適化し、PC 起動時間の短縮や定義ファイル更新時のパフォーマンス劣化がなくなり、エンドユーザーからの苦情もまったくなくなった。

一方、システム管理性が向上したことにより、運用管理担当者の負担が減るとともに、運用管理レベルが確実に向上したという。

「以前はクライアントセキュリティの集中管理が十分できておらず、スキャンエンジンのバージョンがクライアントによってアップデートされているのかどうか、把握できていませんでした。Kaspersky Administration Kit による運用で、エンジンや定義ファイルが最新の状態であるか常に管理側でわかるので、統一されたセキュリティ環境を維持することが可能になりました」(脇坂氏)。

また、ウイルスやスパイウェアを検知して管理者側にアラートが上がった際に、従来はエンドユーザーに連絡してウイルススキャンを実施してもらっていたが、現在は管理センター側で直接できるようになったため、エンドユーザーの負担もなくなった。

Kaspersky Work Space Security によってエンドポイントセキュリティのレベルが向上した塩野義製薬。多賀氏は「セキュリティ対策の基本であるウイルス、スパイウェア対策がカスペルスキーのツールで実現できました。今後はその効果を活かすために、エンドユーザーのセキュリティ教育を徹底していくことが重要と考えています」と語り、ユーザーのセキュリティ意識を高め、ルールの運用を確かなものにするることによって、さらなるセキュリティレベルの向上を目指している。

ネットワーク構成図

